

校長先生の初恋物語

第14話 渡せないプレゼント



カールのチーズ味を食べながら、1人ずつよしこさんにプレゼントを渡していきました。ある女の子は、手作りの人形です。またある子は、ミッキーマウスのハンカチ。次の子はぬいぐるみ。女の子のプレゼントは、よしこさんが喜びそうな、どれもかわいらしいものでした。ダンプさんは、普通の女の子とはちがっていて、漁師をしているおじいちゃんが朝とったというしんせんなカツオをまるごと一匹プレゼントしていました。そして足長君は、かっこつけながら、

よしこさんにプレゼントを渡しました。

「よしこさん。きっとにあうと思うよ。」

おしゃれな箱から出てきたのは、水玉のリボンでした。とてもきれいで、すてきなリボンでした。よしこさんは、とっても喜んで、さっそくりボンを頭につけました。くやしいけど、よしこさんによく似合っていて、とてもいいプレゼントでした。

「足長君、ありがとう。とってもうれしいな♡」

よしこさんにそう言われて、足長君はでれでれになっていました。でも、すぐに、とっくんの方をかちほこったような顔をしてきました。

まだプレゼントをわたしていないのは、とっくんだけになりました。みんなの目は、いっせいにとっくんの持ってきた大きなプレゼントに集中しました。とっくんが持ってきたプレゼントがいったいなんなのか、みんな早く知りたがりでした。なかなかわたそうとしないとっくんに向かって、ダンプさんが言いました。

「とっくん、早くよしこさんにわたしなよ。とっくんのプレゼント大きいか



ら、ぬいぐるみでしょ？」

ダンプさんは大きなかんちがいをしています。かんちがいはダンプさんだけではありません。みんなが、かんちがいをしています。

「まさか、今みんなが食べているカールのチーズ味が入っているなんて、言えないよ。」

わたしづらくて、もじもじしているとっくんの様子を見て、足長君がカールのチーズ味をぼりぼり食べながら言いました。

「とっくん。ぼりぼり。ぐずぐずするなよ。ぼりぼり。早くよしこさんに渡せよな。ぼりぼり。」

しかたなく、プレゼントをわたしました。ゆっくりほうそうしを開いていくよしこさん。みんなは身を乗り出して、その中身を見ようとしていました。そんなみんなの口の中は、カールのチーズ味が入っています。

「何だろうねえ。ぼりぼり。」

「よしこさん、早く開けてよ。ぼりぼり。」

「何が出てくるか、楽しみだねえ。ぼりぼり。」

今、みんながぼりぼり食べてるカールのチーズ味がこれから出てくるのです。とっくんは逃げ出したい気持ちになりました。

ついにカールのチーズ味が出てきてしまいました。とっくんはうつむいてしまいました。部屋の空気がこおりつき、時間が止まりました。とうぜん



ですが、よしこさんは、少しもうれしそうな顔ではありませんでした。周りの女の子たちは、カールが出てきたしゅんかん、口の中のカールをぼりぼりかむのをやめて、固まっていました。

最初に口を開いたのは、足長君でした。にっくき足長君は、大笑いしながら、とっくんに向かって、ひどいことを言いました。つづく

このあと、足長君ととっくんの、戦いにはってんしてしまうできごとがおこってしまうのです。

次回予告

とっくん vs 足長君